

今年 2019 年 3 月、建物住人らが横領容疑を私にかけた。どうやら、理由はリビングの銀行口座に入金があったことを、横領の証拠としたようだ。

そもそも金があったことは、不正をしなければ知りえない。管理組合弁護士が、弁護士特権を乱用して調べた可能性も考えられるが、弁護士が関与し始める前に同じことは過去にもあった。リビングの代表より住人らの方が先にリビング銀行口座への入金を知り、横領をしたと騒ぎ始めたことがある。

横領については、裁判の証人尋問で宣誓した上で“横領をしたといった住人は存在しない”と証言、同様のことを総会でも言っている。私は組合費 1 円の決済に関わったこともないし、そのような記録はない。誰が決済に関わったか、帳簿からはっきりしている。そのような噂が流れていたら、犯人は組合費決済に関わった住人やその仲間以外、流すメリットははずだ。また、偽証をしたことにもなる。

2013 年和解調停で A,B,C,D,E は中傷誹謗されたと主張、謝罪を求めた。調停中、何らやましいことはないと主張、帳簿閲覧請求に応じなかった。調停後の帳簿閲覧請求訴訟(2014-15 年)と失われていたレコーダが見つかったことで、調停(裁判)で A,B,D,E が嘘を言っていた証拠が揃った。

- C(1995-2007 年理事長)で 2007-2008 年大規模当時副理事長兼修繕委員は、組合費を長期滞納、大規模工事完了直後に退去。理由は借金を財産をすべて取られたことだった。退去後行方知らず。
- D は警察沙汰を起こしていた。調停では事件など起こしていない誹謗中傷だと主張
- A は大規模工事の代金支払・契約書を隠し、嘘を言っていた
- B は建築事務所をやっていて、その会社のインターネットの Web ページで自身が設計したという複数のビルの写真を掲載していたが、建築で生計を立てた証拠がない(もし、決算書等がでてきたら、それぞれの税務署への提出日の確認や、その前後の組合費の動きと照らし合わせることは必須だ)

複数ビル設計の実績のある建築家が住んでいるマンションという嘘を長年維持してきた住人らのほとんどは仕事についていない。何をして生計をたててきたのか？

それ以外の仕事についている、仕事をしていることが分かっていた区分所有者は入れ替わり続けている。

マンション建物の設計者本人という噂までながして、複数ビル設計の実績のある建築家が大規模工事に工事監理者としてかかわった。建築で生計を立てた証拠がないということは、そこまでして多額資金が動く工事に関わる必要があったということだろう。

マンション建物の設計者本人のふりをして、建物についてなんでもわかっているようなことをいって、誰にも共有部の管理に“手を出させない”ようにしてきた。大規模工事の資料は個人で保管、共有部を誰も管理できない。

2016-7年にも大規模工事をやっているが、その住人が建築のプロだといって修繕委員長になった。施行会社が示した選択肢から選ぶだけという素人が指示を出す程度こととしただけだろう。表に出て指示を出すこともない、ビルをいくつも設計したと大きなことをいっているだけで、結局、修繕委員は勝手に解散、工事説明もしないままだ。多額の資金を動かしたことは事実ある。

建築で生計をたてたことがない住人や、なにをして生計をたてたのかわからない住人らである。大規模工事に関わる必要があるということは、その資金が目当てだろう。共有部の一部を不正に横領をしている区分所有者がいるということは、他のも横領している部分があると思われる。どこまでが共有部なのかもわからない状態は、建築誇大妄想に加わらない住人を追い出す、何も知らない区分所有者を騙すことで可能だったと考える。

“逆らったらどうなるわかっているだろうな”と知っているようだが、管理組合という名前をつかって、横領容疑をかけて銀行口座を調べるといったことをして

いるのだろう。

2016-7 年裁判で、この建物では組合費は“ショバ代”として徴収されているのと同じだ、管理組合という仕組みがその取り立てに利用されているようなものだと陳述した。規約を根拠に組合費支払を求める。一方、帳簿閲覧訴訟で開示された帳簿を住人に配布したことを中傷誹謗の文書配布と呼ぶ実名張り紙を1F エレベータに入り口に掲示（街宣車が来て、公衆面前で騒ぐのと同じことだったと思う）、退去決議、土下座謝罪等をしているが、これらの正当な根拠は示せない。

2010 年前後からこれら住人により私が横領をしたという話が外部に流れたと認識する。2019 年 3 月、再び始めた。放っておいたら仕返しされる、怖くてもしょうがないとっているようだ。何をしたか知れば、その言葉の意味が分かるだろう。住人の銀行口座をしらべて、入金があったら嘘を手当たり次第にいいふらす、将来入金がないように嘘を流すことをしてきたと考える。

裁判や総会、理事会で嘘を言うのであれば、日常的に何も事情をしらない外部第三者に平気で嘘を言うと思う。何らやましくなければ、何をして生計を立てたのか証拠をそろえて出せばすむことだ。それができないから嘘を言う必要がるのだろう。どんな嘘か？ 私の頭がおかしい、空想だ、横領をしたから嘘をいっている、結婚詐欺の前科があるといった中傷だけだ。

これまで何年にもわたり根拠のない嘘を外部の第三者に嘘をいって巻き込んだ。今になって根拠がない嘘だとわかってもしじさせた敵対関係は消えない、後戻りできない状態である。

仕事に何年もついていない住人らや、その住人らと大規模修繕工事に関わった住人らに、仕事に何年もついていない住人らが何をして生計をたてたのか証拠をそろえて説明させてみるとよい。

リビグに住人が金をだした、開発費をだしたといった噂もあるようだ。冗談にもならない。口を交わす関係もない。裁判で嘘をいうような住人らである、ど

のような嘘でも平気でいうだろう。建物内部で経験したことは、典型的な詐欺だと考える。工事前は複数ビルの実績のある建築家、その後は、どんな工事をしたかの説明もない、修繕委員は勝手に解散、工事責任放棄。“みんなで決めた”で逃げとおす。

“建築のプロ”は“後進の指導をしている”ようだ。建築で生計を立てたことがないまま、マンション建物の設計者本人、ビルをいくつも設計した実績があるふりを何年もやってきたやりかたを、建物の“若手”に指導しているようだ。本人ではなく、仲間が“XXXさんは建物の設計者よ、りっぱなおかただ”という。本人はふりをする。見返りに大規模工事に仲間が関わる、といったパターンが手口だ。“YYYさんはIT開発者よ”と住人が言う。本人はふりをする。そのふりでどんな利益があるのか？ 営業妨害をすることで、仕返しを避けるという利益ではないか。

建物に出入りしているYという人物がいる。私との関係で建物に出入りし始めたようだが、横領の噂を一方的に拡散したと理解している。数年前から無視して、関わり合いはまったくないが、まだ、私と関係があるようなことになっているようだ。何も知らない外部の第三者がくると、このような輩だけが私についての話をしているようだ。“あいつはどこへいっても問題を起こしている”といった話をしているようだが、どこへいってもこれらの輩が“とりついて離れるな”状態で、同じことをしているに過ぎない。そもそも関わってはいけない輩だったようだと思う。好きで関わり合いができたわけではない。